

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床医学総論Ⅰ	1年次	必修	講義	1単位（30時間）	相田 武則 ※
授 業 概 要					
呼吸器疾患、腎・泌尿器疾患の病態と治療について、医療者として理解しておかなければならない臨床に関連した事項について学修する。					
到 達 目 標					
1）呼吸器疾患の症状を列挙できる。 2）呼吸器疾患の病態の概要を説明できる。 3）腎・泌尿器疾患の症状を列挙できる。 4）腎・泌尿器疾患の病態の概要を説明できる					
実務経験のある教員					
鬼頭 隆尚 片桐 真人 吉田 一成：病院での臨床経験を踏まえ、呼吸、代謝に関わる医学知識について解説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	呼吸器疾患概要	呼吸器系疾患、腎泌尿器系疾患、消化器系疾患概要			鬼頭 隆尚 ※
2～3	呼吸器疾患(1)	感染症 ウイルス、クラミジア、細菌			〃
4～5	呼吸器疾患(2)	感染症 好酸菌、日和見感染			〃
6	呼吸器疾患(3)	アレルギー性疾患、肺線維症、肺血栓塞栓症			片桐 真人 ※
7～8	呼吸器疾患(4)	肺癌、肺腫瘍、呼吸不全			〃
9～10	呼吸器疾患(5)	呼吸器系感染症、拘束性肺疾患、呼吸不全			〃
11	代謝疾患概要	腎・泌尿器疾患概要			吉田 一成 ※
12～13	代謝系疾患(1)	尿細管の機能、腎・泌尿器疾患、糸球体疾患			〃
14	代謝系疾患(2)	代謝系 腎臓の疾患			〃
15	代謝系疾患(3)	尿路疾患、内分泌疾患、神経筋肉疾患 その他			〃
学 習 方 法					
呼吸器系、腎・泌尿器系疾患の概念や病態の基礎的な知識を理解し、臨床工学の計測装置学、生体機能代行技術学と関連づけて学習する。					
評 価 方 法					
学科試験により評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 臨床工学技士標準テキスト 第4版 小野哲章 他 金原出版 配布資料					

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床医学総論Ⅱ	1年次	必修	講義	1 単位（30時間）	外山 竹弥 ※
授 業 概 要					
外科的治療と内科学の概要、画像診断法について、医療者として理解しておかなければならない臨床に関連した事項について学修する。					
到 達 目 標					
1) 内科的治療の概要を説明できる 2) 外科的治療の概要を説明できる。 3) 放射線医学の概要を説明できる。 4) 眼疾患の概要とその治療について説明できる。 5) 麻酔の種類や効果を説明できる。					
実務経験のある教員					
相田 武則 松井 裕史 児玉 直樹 飯田 嘉彦 外山 竹弥：病院での臨床経験を踏まえ、内科、外科、眼科、核医学に関わる医学知識について解説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	内科学概論	内科学の歴史、診断から治療まで			松井 裕史 ※
2	外科学概論(1)	外科の歴史と概要			〃
3～4	外科学概論(2)	心臓血管外科領域の医学的基礎			相田 武則 ※
5～6	放射線医学(1)	核医学と心機能評価			児玉 直樹 ※
7～8	放射線医学(2)	PETの基礎と臨床			〃
9～10	放射線医学(3)	放射線の影響と防護			〃
11～12	眼科医療	眼疾患とその治療			飯田 嘉彦 ※
13	麻酔科学(1)	麻酔の歴史、麻薬、手術室での麻酔の実際、			外山 竹弥 ※
14～15	麻酔科学(2)	鎮痛作用、麻酔薬、吸入麻酔、全身麻酔、局所麻酔			〃
学 習 方 法					
外科的治療の概念や病態の基礎的な知識を理解し、臨床工学の生体機能代行技術学と関連づけて学習する。画像診断について生体計測工学と関連づけて学習する。病態生理と解剖生理学の関係を学習する。					
評 価 方 法					
学科試験により評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 臨床工学技士標準テキスト 第4版 小野哲章 他 金原出版 配布資料					

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床医学総論Ⅲ	1年次	必修	講義	1 単位（30時間）	相田 武則 ※
授 業 概 要					
消化器、内分泌系、神経系における病態学及びその治療などについて、臨床に関連した内科学概論として医療者として理解しておかなければならない基本的な事項を学修する。					
到 達 目 標					
1) 代表的な消化器疾患の症状及び病態の概要を説明できる。 2) 代表的な内分泌系疾患の症状及び病態の概要を説明できる。 3) 代表的な神経疾患の症状及び病態の概要を説明できる。					
実務経験のある教員					
松井 裕史 相田 武則：病院での臨床経験を踏まえ、消化器、内分泌、神経に関わる医学知識について解説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	消化器系疾患(1)	食道、胃・十二指腸疾患			石原 和彦
2	消化器系疾患(2)	小腸・大腸疾患			〃
3	消化器系疾患(3)	肝疾患			〃
4	消化器系疾患(4)	胆道疾患、膵疾患			〃
5	内分泌系疾患(1)	下垂体疾患			松井 裕史 ※
6	内分泌系疾患(2)	甲状腺疾患/副甲状腺疾患			〃
7	内分泌系疾患(3)	副腎疾患			黒川 宏美
8	内分泌系疾患(4)	糖尿病、脂質異常症、その他の代謝異常			〃
9	神経疾患(1)	神経系の基本			霜田 靖
10	神経疾患(2)	運動系、内分泌系、免疫系の基本			〃
11	神経疾患(3)	神経・筋肉疾患の事例 その1			〃
12	神経疾患(4)	神経・筋肉疾患の事例 その2			〃
13～15	総括				相田 武則 ※
学 習 方 法					
消化器系、内分泌系、神経疾患の概念や病態の基礎的な知識を理解し、臨床工学治療機器学と関連づけて学習すること。					
評 価 方 法					
学科試験により評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 臨床工学技士標準テキスト 第4版 小野哲章 他 金原出版 配布資料					

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床医学総論Ⅳ	1年次	必修	講義	1 単位（30時間）	五十嵐 康之 ※
授 業 概 要					
血液成分の産生・機能、凝固止血機構の検査に必要な血小板、凝固・線溶系因子の産生と仕組みなど臨床に関連した医学的知識について理解する。 臨床に関連した血液疾患と凝固疾患の概要、所見と治療について学ぶ。					
到 達 目 標					
1）血液の概要、血液細胞の生体内での機能、造血臓器について解釈する。 2）血液疾患の成因、症状、病態、診断基準、治療について説明できる。 3）血小板系、凝固系、線溶系の止血機構について解釈する。 4）凝固疾患の成因、症状、病態、診断基準、治療について説明できる。					
実務経験のある教員					
五十嵐 康之：受託臨床検査施設及び病院での臨床経験を踏まえ、血液に関わる医学知識について解説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	血液学概論(1) 血液の概要、血液成分と血球の種類				五十嵐 康之 ※
2	血液学概論(2) 血球の産生、分化、成熟、崩壊				〃
3	血液学概論(3) 血球（赤血球・白血球・血小板）の機能				〃
4	赤血球系疾患(1) 貧血（小球性・正球性貧血）				〃
5	赤血球系疾患(2) 貧血（大球性貧血）、赤血球増加症				〃
6	白血球系疾患(1) 白血球増加症・減少症				〃
7	白血球系疾患(2) 白血病（AML、ALL、CML、特殊な白血病）				〃
8	白血球系疾患(3) 多発性骨髄腫、悪性リンパ腫				〃
9	凝固止血機構概論(1) 出血と止血の仕組み、一次止血と二次止血				〃
10	凝固止血機構概論(2) 血小板の機能、凝固因子の種類、凝固機序				〃
11	凝固止血機構概論(3) 凝固制御機構、線溶機構				〃
12	血小板系疾患 血小板減少症、血小板機能異常症				〃
13	凝固系疾患 凝固因子異常症（血友病、VWD、ビタミン K 欠乏症）				〃
14	血栓性素因 DIC、TTP、抗リン脂質抗体症候群				〃
15	輸血 血液型、輸血製剤、合併症				〃
学 習 方 法					
臨床工学技士の業務に必要な不可欠な病態学についての総括となる。しっかりと理解すること。					
評 価 方 法					
学科試験により評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕					
病気がみえる vol. 5 血液		土屋達行 他		MEDIC MEDIA	
臨床工学技士標準テキスト 第4版		小野哲章 他		金原出版	
配布資料					

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床医学総論Ⅴ	1年次	必修	講義	1 単位（30時間）	相田 武則 ※
授 業 概 要					
臨床に関連した医学的知識、病態学、感染症について理解する。					
到 達 目 標					
1）病態学について説明ができる。 2）生化学や血液系疾患の説明ができる。 3）呼吸器疾患について説明できる。 4）その他感染症、生理機能などについて説明できる。					
実務経験のある教員					
五十嵐 康之 西村 裕介 金子 博司 外山 竹弥 相田 武則：病院での臨床経験を踏まえ総合的な医学知識について解説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	病態学(1)				外山 竹弥 ※
2	病態学(2)				〃
3	病態学(3)				〃
4	血液系疾患(1)				五十嵐 康之 ※
5	血液系疾患(2)				〃
6	生化学・臨床生化学				西村 裕介 ※
7	呼吸器系疾患(1)				相田 武則 ※
8	呼吸器系疾患(2)				〃
9	呼吸器系疾患(3)				〃
10	感染症・滅菌消毒(1)				金子 博司 ※
11	感染症・滅菌消毒(2)				〃
12	生理機能(1)				外山 竹弥 ※
13	生理機能(2)				〃
14	生理機能(3)				〃
15	総括				相田 武則 ※
学 習 方 法					
臨床工学技士の業務に必要な不可欠な病態学の総括となる。しっかりと理解すること。					
評 価 方 法					
学科試験により評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 臨床工学技士標準テキスト 第4版 配布資料					
小野哲章 他 金原出版					

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床医学総論Ⅵ	1年次	必修	講義	1 単位（30時間）	相田 武則 ※
授 業 概 要					
循環器疾患の病態と治療について、医療者として理解しておかなければならない臨床に関連した事項について学修する。					
到 達 目 標					
1）循環器疾患の症状を列挙できる。 2）循環器疾患の病態の概要を説明できる。					
実務経験のある教員					
勝又 稔 相田 武則：病院での臨床経験を踏まえ、循環に関わる医学知識について解説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1～2	循環器疾患概要	循環器系疾患、血液疾患概要			相田 武則 ※
3～5	循環器疾患(1)	先天性心疾患(1)、先天性心疾患(2)			〃
6～8	循環器疾患(2)	後天性心疾患、虚血性心疾患			〃
9～11	循環器疾患(3)	不整脈、静脈疾患、リンパ管疾患			〃
12～13	循環器疾患(4)	ペースメーカー、心臓カテーテル、人工心肺			〃
14～15	集中治療・救急医学	ICU、CCU における術後管理			勝又 稔 ※
学 習 方 法					
循環器系疾患の概念や病態の基礎的な知識を理解し、臨床工学の計測装置学、生体機能代行技術学と関連づけて学習する。					
評 価 方 法					
学科試験により評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 臨床工学技士標準テキスト 第4版 配布資料					
小野哲章 他 金原出版					

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
臨床医学特論	1年次	必修	講義	1 単位（30時間）	外山 竹弥 ※
授 業 概 要					
業務に必須とされる臨床医学知識について実際にどのように応用されているかその概要と病態について学ぶ。					
到 達 目 標					
1）内科学及び外科学の概要について説明ができる。 2）呼吸生理の概要とその疾患について説明できる。 3）循環生理の概要とその疾患について説明できる。 4）麻酔学の概要及び原理について説明できる 5）その他感染症、消化器系疾患、血液系疾患について説明できる。					
実務経験のある教員					
外山 竹弥：病院での臨床経験を踏まえ総合的な医学知識について解説する。					
回	学 習 内 容				担当教員
1	内科学及び外科学概論				外山 竹弥 ※
2	呼吸生理の概要及び呼吸器系疾患				〃
3	循環生理の概要及び循環器系疾患				〃
4	内分泌・代謝系疾患の概要				〃
5	神経・筋肉系疾患の概要				〃
6	感染系疾患概要とその病態				〃
7	腎臓・泌尿器・生殖器系疾患の概要とその病態				〃
8	消化器系疾患の概要とその病態				〃
9	血液学概論 止血機序について				〃
10	血液系疾患の概要とその病態				〃
11	救急・集中治療医学				〃
12	麻酔科学概論				〃
13	臨床生理学検査				〃
14	移植・免疫系疾患概要				〃
15	総括				〃
学 習 方 法					
臨床工学技士の業務に必要な不可欠な臨床医学及び病態学の総括となる。しっかりと理解すること。					
評 価 方 法					
学科試験により評価する。					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕 臨床工学技士標準テキスト 第4版 配布資料					
小野哲章 他 金原出版					